

# 令和5年度第1回合同教育研究会議議事概要

## 1 開催日時

令和5年4月12日 13時00分～13時50分

## 2 場所

本部棟3階 特別会議室

## 3 出席者

鈴木学長兼副学長事務取扱、亀田副学長兼研究・地域連携本部長、宮野副学長兼事務局長、猪股教育支援本部長兼高等教育推進センター長職務代理兼教学IRセンター長職務代理、三上学生支援本部長、橋本企画本部長、熊本国際教育研究部長、福島看護学部長、高橋社会福祉学部長、高田ソフトウェア情報学部長、高嶋総合政策学部長、川崎盛岡短期大学部長、松田宮古短期大学部長、長谷川委員（学外委員：製品評価技術基盤機構理事長※Web参加）、宮本委員（学外委員：岩手大学人文社会科学部教授）

### [事務局]

新沼事務局次長兼総務室長、関屋教育支援室長、高田学生支援室長、藤村研究・地域連携室長、佐藤企画室長、長谷川宮古事務局長、西川総務財務課長、八木主幹、及川主任主査、伊藤主任主査

## 4 会議の概要

### 議事録確認

前回会議3月22日の議事録（議事概要）については、原案のとおり了承された。

### 審議事項

なし

### 協議事項

#### 学長選考会議委員の選出について

新沼事務局次長兼総務室長から、資料に基づき説明があった。

委員から、学長選考会議のあり方について令和4年5月の教育研究会議において意見交換を行い、その内容を学長選考会議へ報告・提案したが、提案に対して学長選考会議がこれまでどのように対応したか報告されていないことから、報告を求めるとの発言があった。

協議の結果、原案のとおり了承された。

### 報告事項（口頭報告）

#### (1) 認証評価結果の概要について

橋本企画本部長から、資料に基づき説明があった。「大学の長所・特色検索」への対応については、既に関係する部局に依頼済みであること、「改善課題」として提言を付された事項への対応については、第三期中期目標の期間評価結果への対

応と併せて大学評価委員会から各部局へ検討を依頼する予定であるとの補足説明があった。

学長から、社会福祉学部と盛岡短期大学部に指摘のあったC A P制度への対応については、改善状況の報告期限である令和8年7月までに学修成果の可視化を行い、学修成果がしっかり上がっていることから現行の対応で問題がないということに訴えなければならないと考えているとの発言があった。

これに対し委員から、社会福祉学部ではC A P制度の内容を理解した上でやむを得ず現状の対応となっていること、C A P制度は認証評価機関ではなく国が定めているものであり、賛同できるものではないが守らなければならないものであると捉えているが、これを拒否しようと考えているのかとの質問があり、学長から、基本の単位数上限を設定し、集中講義や資格関連の科目、副専攻の科目などをC A P制度の対象外としたり、成績上位者の単位数上限を引き上げるなどの対応をした上で、大学入学共通テストへの英語民間試験導入の時と同じように、C A P制度自体の問題点については声を上げていかなければならないとの発言があった。

これに対し委員から、社会福祉学部においては集中講義は既にC A P制度の対象外とし、また資格関連の科目の多くを課程内では別枠として扱っているが、それでも指摘がなされている状況であるとの発言があった。

学長から、令和8年7月までにどのように対応するか、学内で話し合いながら検討を進めるとの発言があった。

## (2) 令和5年度岩手県と岩手県立大学との意見交換会について

橋本企画本部長から、資料に基づき説明があった。意見交換会の内容は現在調整中であるが、令和5年度における各学部・本部の取組の説明が見込まれることから、調整後に改めて資料作成などを依頼する予定であること、意見交換会後に懇親会も行う予定であるとの補足説明があった。

学長から、各学部からの具体的な要望などを岩手県に対してしっかり伝える場にしたいとの発言があった。

## (3) 令和4年度教職員アンケートの結果について

橋本企画本部長から、資料に基づき説明があった。数値目標の達成状況については、第三期中期目標の期間評価に向けて整理を行うが、目標を達成したかどうかだけでなく、前回調査から数値が上がらなかった項目についてはなぜ上がらなかったのかといった本質的な分析が必要であると考えているとの補足説明があった。

委員から、教員と事務局職員のデータを分けることは可能かとの質問があり、橋本企画本部長から、可能であるとの回答があった。

委員から、教員の中には中期目標・計画を把握していない者もいることから、教職員アンケートの結果を中期目標・計画の指標として積み上げることは良い取組であるとの発言があった。

## (4) 令和4年度就職先企業アンケートの結果について

橋本企画本部長から、資料に基づき説明があった。学部卒、大学院卒、短期大学部卒が混在しているアンケートであり、分類することができないため、アンケート結果を一概に捉えることはできないとの補足説明があった。

委員から、本学卒業生に対する外部評価として非常に貴重なデータであること

から、アンケートを拡充し、DPの評価や副専攻（地域、国際）の評価、数理・データサイエンスプログラムの評価にも活用したいとの発言があった。

委員から、卒業生が企業にどう評価されているかを知ることは重要であり、企業が求める学生像について他大学と比較などできるようになるとよいとの発言があった。

委員から、大学での教育が就職先でどのように役立っているかなどについて、卒業生から後輩に対して報告できる機会を作れるとよいとの発言があった。

#### 報告事項（資料報告）

- (1) 令和5年度入学者選抜試験の結果について
- (2) THE 日本大学ランキング 2023 について
- (3) 「令和4年度第12回職員衛生委員会」の結果について

#### (2)について

学長から、認証評価では社会連携・社会貢献が長所として評価されたが、このランキングの評価分野にはないことから、このランキングに無理に追従することなく、地域の大学であるという特色を生かしていきたいとの発言があった。これに対し橋本企画本部長から、このランキングへの参加を続けるかどうかを検討したいこと、ランキング以外で本学の特色を効果的にアピールしていきたいとの発言があった。

委員から、国際性に数値がついていないのはなぜかとの質問があり、橋本企画本部長から、国際性の指標には外国人学生比率などがあるが、本学の状況が評価をするラインに達していないと評価する側が判断したものと考えられるとの発言があった。

#### その他

佐藤企画室長から、大学基準協会の広報誌を机上配付した旨、説明があった。